



## おけと人間ばん馬

綱引きとともに置戸の名を広め



第36回人間ばん馬大会の様子

置戸の夏まつりは、昭和43年に従来の置戸神社春季祭典と、戦没者招魂慰靈祭と一緒にして「おけと夏まつり」としたものですが、統一当時は花火大会をメインにイベントが行われていました。

昭和49年からは、近隣市町から100頭を超える馬が集まり輶馬大会が実施されていましたが、10年目を迎えた昭和52年に、当時の商工会青年部長山本佳一さんのアイデアで、馬に代わって人が丸太を曳く「山神祭バチ曳き合戦」が登場。これが後の「人間ばん馬」となりました。当初は、切り倒した280キロの丸太をバチ（鉄ぞり）に乗せて70メートルを曳き合う競技でしたが、しだいに現在の姿に変わっていきました。

競争心をあり、何よりも絵になる人間ばん馬はマスコミうけして、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌で広く紹介され、“置戸=力持ちのいるまち”という印象を深めていきました。昭和56年、NHKテレビの日本綱引大会に、置戸が推薦を受け「人間ばん馬」のチーム名で出場し優勝。この年

から日本綱引連盟でも全国大会を開催するようになり、置戸はNHK大会の翌年から全日本綱引大会に出場して、昭和57年から3年連続優勝の偉業を成し遂げ、全国にその名を広めました。

この間、昭和57年にはHBCテレビが置戸を舞台に、人間ばん馬をストーリーに入れた『ふるさとは祭り』を企画し、真野響子、池内淳子、福田豊士らが来町してロケーションを行い、HBC制作100本記念番組東芝日曜劇場で放送され好評を博しました。また、昭和62年には人気タレントの志村けん一行も参加。このシーンを見るために2万人余りが訪れ、おけと人間ばん馬は賑わいを見せました。

今年で37回目を迎える人間ばん馬大会は6月30日午前10時に第1レースが始まります。5人、7人で引っ張る重量は予選300キロ、決勝500キロ。果たして今年はどんなドラマが待ち受けているのでしょうか。期待で胸が膨らみます。

(参照：置戸町史下巻、続置戸町史)



## 新しい商工会青年部長

くにみ りょういち  
國見 良一さん



第22代の置戸町商工会青年部長に就任した國見良一さん。「今の自分にできることを精一杯やるだけ。新入部員の勧誘にも力を注ぎたい」と話します。高校卒業後、プロのお菓子づくり職人を目指し、調理師専門学校へ進学。その後、菓子専門店での下積みなどを経て、家業の佐々木菓子舗を継ぐため22歳の時に帰郷。商工会青年部に入部したのもほぼ同時期で「友人の誘いでお祭りの手伝いなどしているうちにいつの間にか自分も部員になっていた」と笑います。今年の人間ばん馬大会は、國見さんらが中心となり全道各地でのPR活動を終え「部長として臨む最初の大会。とにかく無難に終えたい」とし、「楽しみにしてくれている多くの方々の期待を裏切らないようしっかり準備を進めたい。あとは当日のお天気頼みです」と意気込みを見せています。置戸町中央在住。37歳。